

第1回「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 摘録

1 日 時 平成20年7月11日（月）13時30分～15時30分

2 場 所 京都ホテルオークラ 曲水の間

3 出席者 別紙1 委員出席者名簿

4 議事次第及び内容

（1）開会

門川市長挨拶

- 京都が今後も世界に誇れるまちであり続けるためには、「歩くまち・京都」を実現することが最も大事である。
- 歩くことは健康に良く、京都の景観は歩いて楽しむもの。行政主体にならないで、市民の皆様と共に汗をかいていきたい。
- 人の環境に良いことは、地球の環境にも良いものであり、交通を切り口として、新しい御提案をいただき、市民の皆様と共に京都の未来をつくっていききたい。
- 将棋の「歩」のうらは「と」に見えるが、実は「金」であり、歩くということは黄金であると思う。よろしくお願いしたい。

（2）出席者紹介（事務局から紹介）

北村会長挨拶

- 歩くことは人間の根幹であり、健康のもとでもあるので、京都市の交通政策の根本におかれたことは大変喜ばしい。
- 20世紀はクルマの世紀であった。都市は低密度に広がり、中心市街地の活力の低下、健康や景観にも悪いなど様々な問題の要因であった。
- 歩くことによって、人と挨拶したり立ち話したりできるが、クルマだとできない。つまり、クルマは孤立したものであり、それではコミュニティはできない。21世紀を「歩く世紀」に変えてしまおう。未来が明るく見えてきて嬉しい。
- 「歩くまち」は2つの要素が大事であり、その1つが「楽しく歩けること」。2つ目が「歩いて用が足りること」。この2つの要素があって人が歩く。京都市には徒歩圏経済を支える基盤が残っており、それを活かして、近所つきあいもある豊かなライフスタイルを目指していくことが重要である。
- 京都のまちの歴史・文化の積み重ねを、最大限に活かすことのできる交通戦略を策定するために、委員の皆様の活発な議論をお願いしたい。

(3) 諮問（門川市長から北村会長へ）

別紙2のとおり

(4) 議事

ア 副会長及び検討部会長の選任

内藤副会長：公共交通優先のライフスタイル検討部会長

中川副会長：公共交通ネットワーク検討部会長及び
未来の公共交通まちづくり検討部会長

イ 「歩いて楽しいまち」の実現についての説明

- ・ 京都市民の誇り
- ・ 交通と市民生活
- ・ 京都市の交通の状況

ウ 今後の審議の進め方について説明

(5) 意見交換

上田委員：京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長

- 「歩いて観光・生活」するまちをつくるのは大賛成。交通ネットワークとして特に鉄道を利用してもらおうという取組はすでに進めているが、もう一步踏み込めないところもあるので、検討部会でも議論したい。
- 歩いて観光するには、わかりやすい案内図が必要である。また、視認性のよい案内標識の充実が必要である。
- 10月の中之島線開通にあわせ、お客様に「祇園」「清水」があることをアピールできるように京都市内の駅名を改称する予定であり、遠くからでもわかりやすい標識をつくりたい。しかし、景観条例では、商業看板と同じ扱いになっており、屋外広告物に該当するため、目立たぬように案内しなければならない。その辺議論していただいて、公共的な表示については、別の基準の適用をお願いしたい。

谷口委員：立命館大学情報理工学部助教

- 自転車京都街角セッションを中川先生や山崎副市長とやらせていただいております、この議論を交通戦略に届けるのが役割だと思っている。
- 徒歩と公共交通の役割の中で、自転車のメリットが過小評価されている。自転車には門川市長の提案されている8K（健康，環境，公共交通，子育て・教育，コミュニティ，景観，観光，経済）の実現の上でも徒歩以上の効果が期待できる面がある。自転車は市民の足であり、健康にも良いもので、コミュニティの面でも良い。さらに地域経済の面でも、自転車による市内観光は重要であり、また環境面では本質的にゼロエミッションである。これらの点も含めて、より積極的に審議会の中で自転車の活用を議論していきたい。

太田委員：京都府総務部長

- 良い取組だと思う。「歩く」「自転車」が3つの検討部会の名称に入っていた方が良いのではないかな。
- 自転車が使いやすいまちにしていくには財源と駐輪場の問題がある。また、何をするにせよ、市民ぐるみの取組とする重要性を感じている。

平井委員：京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長

- 商工会議所としても、10数年前からLRTをはじめとした交通問題に取り組んできて、市にも提案をしてきた。公共交通機関同士の結節の向上も申ししてきた。
- LRTがどういうものであるかまず早く見せること、そして体感することが大事である。
- 10年後とかでなく、できることからやっていかなければならない。
- 歩いて楽しいまちにするためには、観光・商業の問題もあるが、移動手段となる交通問題も大切だと思っている。

内藤副会長：京都大学名誉教授

- 京都市環境審議会でも、京都が議定書を守れなかったらどうなるのかということに危惧していた。このままだと京都議定書の達成は難しいが、今回、これだけのメンバーを集めて、京都市が本気で脱クルマに取り組まれるということであり、希望が見えてきた。
- 交通と経済の関係を考えたときに、今回の説明では観光面からの関わりだけであったが、その他に地域の経済産業活性化の面からも考えなければならない。クルマ中心の社会においては、郊外型のスーパーにお金が流れるが、歩いて楽しいまちでは、地域の経済が再生されていく。

池坊委員：華道家元池坊次期家元

- シンガポールでは、クルマの販売価格を高くし、幹線道路での料金徴収、ナンバープレートの偶数・奇数による流入規制など、かなり強権的にクルマの抑制をしている。シンガポールは金銭的負荷をかけることによりクルマ抑制を図ってきたが、京都では少し違ったやり方があると思う。
- 変化を訴えることができるのは京都だけだと思う。理念だけではなく、実際に実行してモラルを示していくことも重要で、それが両方できるのは京都しかないと思うので、良い方向に進めていきたい。

岩井委員：醍醐コミュニティバス市民の会会長代行

- 歩くことは良いことだと思うし、私自身も歩いて運動しなさいと言われて、犬と散歩している。しかし、公共交通を降りてから色々な場所を歩いて観光できるようにはなっていないと思う。

○醍醐コミバスは地域が立ち上げて地域の力で実現した。やれることからやっ
ていけないと思う。また、市民の声を十分に聞きながらやっていただければ
良い結果が出るはずである。

大石委員：大石内科クリニック院長

○糖尿病を専門としており、運動療法とは関わりが深い。患者の方との会話
の中で、「運動するために公園に行ったりするが、日常生活のなかで買い物や通
勤で歩くことは難しい」と聞く。市民の行動を促すようなインセンティブを
高める活動も考えていけばならない。

○歩行者と自転車の接触事故が多く、高齢者の方が被害にあわれることも
多い。年齢層別の問題も検討が必要である。

○最近、観光のためのマップは多くあるが、市民の健康を考えた場合の
マップは、観光マップと視点が異なってくる。公園やそこに行くまでの道幅
や高低差を示したような健康マップを作成したらいいと思う。

佐伯委員：京都市女性連合会副会長

○観光都市に注目されているが、観光地周辺はクルマが多く、市民生活が
ままならないということもある。駐輪場や道路が狭いことなどの問題につ
いて、一緒に考えていきたい。

三木委員：京都府警察本部交通部長

○京都は隘路が多くて道路容量が少ない。平安京の時は当時最先端であ
ったが、無計画のままクルマが増えて今の交通実態になっている。

○自転車・歩行者とクルマが混在して非常に危険であるが、道路が狭
いため解決が難しい。解決方策について知恵を絞っていただいて現実的な
案を検討してほしい。

○様々な視点があるため全員が満足することは難しいが、地域別に方
針を定めるというやり方もあると思う。

大橋委員：西日本旅客鉄道株式会社執行取締役員京都支社長

○クルマ以外の方法で京都に来ていただくことが使命であるが、J R
のみの発想にとらわれていた部分もある。最近になって、京阪や京都市交
通局と連携した取組を行っている。例えば、東福寺や二条での乗り換え
についてPRしたところ、利用者が大幅に増加した。更なる鉄道事業者
間の連携強化によってできることもあると思う。

○I Cカードの普及により乗り換え抵抗が下がってきており、このよ
うな取組をさらに促進できるように、政策面での支援があると有難い。

角委員：阪急電鉄株式会社代表取締役社長（若林代理：取締役都市交通事業本部長）

- 市内に流入するクルマの量を抑制するためには、クルマと公共交通機関を連携する広域的なパーク＆ライドが有効ではないか。
- 京都の市電がなくなる日に、乗りに行ったことを覚えているが、市電を残していたら変わっていたかもしれない。
- 新たな交通手段としてレンタサイクルとかL R Tといった手段も考えていけると良い。
- 京都市内の共通乗車券を作るなどの工夫により、公共交通に気軽に乗れるようになるのではないかなと思う。

葛西委員：京都市公営企業管理者（交通局長）

- 総合交通戦略の中で多角的にやっていただくことは心強い。これまで、なかなか取り組むのが難しかったテーマもこれを機にやっていきたい。将来を見通した交通のあり方を議論した上で、交通事業者として何をすべきか、ということを考えていきたい。
- 京都に地下鉄がなかった頃のまちづくりが、どのようなものであったかを思い出しながら、今後のまちづくりがどういった方向に向かうべきかを検討するべきである。

西植委員：国土交通省近畿地方整備局建政部長

- 検討にあたってコンパクトな土地利用の視点が必要である。高齢者を含めた交通弱者も楽しむことができるような、ハード面での整備や、料金施策の検討が重要であると思う。

吉田委員：国土交通省近畿運輸局企画観光部長

- 地球環境問題の中で、CO₂排出削減において交通が占める割合は大きい。そのためには、マイカー通勤対策と観光客対策が重要である。
- 観光振興により観光客流入が増大する。来訪者が増えることを考えれば、環境負荷を抑えながらサステイナブル・ツーリズムの視点が重要である。全国のモデルとなるよう期待している。

奥野委員：京都市教育委員・スポーツコメンテーター

- 京都で日々過ごしていて、世界遺産がたくさんあるまちであり、歩くことが楽しいと感じることができる。海外にも自転車レーンやP＆Rなどの良い取組があるので参考にしていけるべきである。

村上委員：株式会社京都放送報道局アナウンス部長

- 「歩くまち・京都」の大前提は安全・安心であると思う。ラジオで自転車と歩行者の衝突の話に対して反響が大きく、みなさん関心が高いのだと思う。

山崎委員：京都市副市長

○資料5の21ページに掲げた内容は、本市が環境モデル都市で提案したシンボルプロジェクトの一つであるが、「歩いて楽しいまち」の実現に向け、強力的に推進していきたい。

中川副会長：京都大学大学院工学研究科教授

○皆様が、今日「このようにしたい」と言われたことは、京都ならできると思っている。なぜならば、世界の多くのまちはクルマの普及にともなって低密度で拡散したまちに変貌してしまったが、三山や川を守ってきた京都は、コンパクトな構造を保持してきた歴史があるからである。

(6) その他（事務局から検討部会の開催予定と委員の参画について）

○3つの検討部会への参画と、検討部会でのさらなる議論をお願いしたい。

(7) 閉会（門川市長）

○交通戦略は、まちづくりから人間の生き方までにわたって取り組んでいかなければいけないという思いを新たにした。皆様よろしくお願いします。

京都市都市計画局歩くまち京都推進室ホームページ
<http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/soshiki/9-5-0-0-0.html>

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会 出席者名簿

(敬称略)

(委員)

会 長	北村 隆一	京都大学大学院工学研究科教授
副会長	内藤 正明	京都大学名誉教授
副会長	中川 大	京都大学大学院工学研究科教授
委 員	池坊 由紀	華道家元池坊次期家元
〃	岩井 義男	醍醐コミュニティバス市民の会会長代行
〃	上田 成之助	京阪電気鉄道株式会社代表取締役社長
〃	大石 まり子	大石内科クリニック院長
〃	太田 昇	京都府総務部長
〃	大橋 幸之助	西日本旅客鉄道株式会社執行役員京都支社長
〃	奥野 史子	京都市教育委員・スポーツコメンテーター
〃	佐伯 久子	京都市地域女性連合会副会長
〃	角 和夫	阪急電鉄株式会社代表取締役社長
	(代理:若林 常夫	阪急電鉄株式会社取締役都市交通事業本部長)
〃	谷口 忠大	立命館大学情報理工学部助教
〃	西植 博	国土交通省近畿地方整備局建政部長
〃	平井 義久	京都商工会議所 地域開発・都市整備委員長
〃	三木 和幸	京都府警察本部交通部長
〃	村上 祐子	株式会社京都放送報道局アナウンス部長
〃	吉田 晶子	国土交通省近畿運輸局企画観光部長
〃	山崎 一樹	京都市副市長
〃	葛西 宗久	京都市公営企業管理者(交通局長)

(京都市)

門川 大作	京都市長
水田 雅博	京都市交通政策監
里見 晋	京都市都市計画局長



「歩くまち・京都」

総合交通戦略策定審議会

会長 北村 隆一 様

「歩くまち・京都」総合交通戦略について

京都市は、山紫水明の自然と1200年に及ぶ悠久の歴史を市民の皆様一人一人が守り育ててきた日本を代表する国際文化観光都市であり、また京都議定書誕生の地として、地球温暖化対策を強力に推進してきた環境先進都市でもあります。しかしながら、市民生活のマイカーへの依存が高まるとともに、観光シーズンにはたくさんの方が自動車で京都を訪れるため、観光地を中心とした交通問題が発生し、市民生活への影響などについて大変危惧しております。

このような問題の解決に向けまして、本市では、平成15年6月に自動車交通抑制を中心とする「「歩くまち・京都」交通まちづくりプラン」(TDM施策)を策定し、観光地等交通対策や交通バリアフリー化事業などに取り組んで参りましたが、本市を取り巻く状況は、少子・高齢化や人口減少時代の到来などの社会経済情勢が変化し、本市の財政事情は一段と厳しさを増しており、また地球環境問題に対する危機感が更に高まる中、新たな視点に立って大胆な対策を進めることが必要になってきております。

このため、本市が、「公共交通に乗って、たくさんの人達がまちに集まり、賑わいを生み出す持続可能な都市」であり続けるため、健康、環境、公共交通、子育て・教育、コミュニティ、景観、観光、経済などの幅広い視点に立った「人が主役の魅力あるまちづくり」を構想するとともに、地域主権時代の全国モデルとなる「歩いて楽しいまち」の実現を目指す「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定について、諮問致します。

なお、この総合交通戦略の策定に当っては、利用者の視点に立った公共交通のネットワーク化の検討や環境に優しく利便性の高い未来の交通システムの検討、更には大胆なマイカー抑制を市民ぐるみで進めるためのライフスタイルのあり方の検討などにより、政策目標や具体的な数値目標(例えば公共交通利用比率)の設定や、それに基づく体系的、戦略的な個別施策を明確にさせていただきますようお願い申し上げます。

平成20年7月11日

京都市長 門川 大作